

「トーマツIFRSサービスセンター」 事業環境に合ったクライアント仕様の IFRS導入サポート

国際会計基準（IFRS）の適用がいよいよ迫ってきた。金融庁は2010年3月期からの任意適用を認め、強制適用の時期を2012年中に判断する方針。対象となる上場企業では、導入にあたって組織横断的に展開される膨大な作業を、確実かつスムーズに進める仕組みづくりが求められる。有限責任監査法人トーマツの経営会議メンバーでIFRSサービスセンターのリーダーである小野行雄が、そのポイントを語る。

今や「IFRS」は、もっとも注目すべきビジネスキーワードの一つである。各企業はどのような取り組みを進めているのだろうか。

日本企業のIFRSに対する取り組み状況は、初歩的な「情報収集」レベル、一歩進んだ「自社への影響分析」、そして「導入作業実施中」の3つのグループに大きく分けることができるでしょう。最近では、多数派である第1グループの企業の多くが、次なる「影響分析」レベルにステップアップしつつあります。

会計基準としてのIFRSの基本概念は「原則主義」であり、業態別など詳細な適用ガイドランスは備わっ

ていません。

同じ製造業でも、研究・開発を事業の中心とした企業とそうでない企業ではIFRS導入による影響度は自然と異なります。導入の準備段階では、自社の事業環境やビジネスモデルを精査し、経営形態に適した導入プロジェクトの仕組みづくりが求められます。

IFRSの導入は、企業業績を判断するモノサシが変わることに他ならない。このような大改革を進めるには、リーダーシップを発揮する司令塔が必要だ。

企業がIFRS導入によって売上計上や減価償却の方法などを変更す

る場合には、業務プロセスやITシステムのほか、業績管理ルールを抜本的に変える必要があるかもしれません。影響を受ける部署は、経理、営業、製造、人事、情報システムなど多岐にわたることが想定されます。

このように組織横断的に展開される導入プロジェクトを的確に推進するためには、社内に「PMO」(プロジェクトマネジメントオフィス)を組成することが望まれます。

社内では、IFRS導入に伴う経営全般への影響分析、会計方針の決定、システムの改善、内部統制の変更など、導入プロジェクトを推進するための必須事項は多岐にわたります。これらを滞りなく進めるために

は「PMO」を早期に組成し、自社のマネジメント層のリードのもとで、全体のタイムスケジュールをにらみながらサポートする外部プロフェッショナルの活用がカギとなります。

専門家としての知見、企業コンサルティングの豊富な実績、十分なマンパワー……。IFRS導入の「プロフェッショナル」に求められる要件とは。

トーマツグループは国内約40都市

に拠点を構える国内最大級のビジネスプロフェッショナルグループの一つです。また、世界140カ国を超えるネットワークを持つ、デロイトトウシュートーマツの日本のメンバーファームでもあります。

トーマツでは専門組織であるIFRSサービスセンターを主軸として、国内を東日本、中京、関西、西日本の4ブロックに分け、それぞれにIFRSPMOを設置し強化メンバーを配しています。そこでは世界から

集めた知見を日本のビジネスに合うよう調整し全員で共有しているため、各拠点を通じて各地区のクライアントに、それぞれの事業環境やビジネスモデルに最も適合したサービスを提供できます。

あらゆる企業の経営手法に合わせた、クライアント仕様のサポートを提供するトーマツは、長期のIFRS導入プロジェクトの頼もしいパートナーになり得ると自負しています。



有限責任監査法人トーマツ パートナー
監査ERS業務本部長 兼 IFRSサービスセンター長

小野 行雄